

Ⅶ 市が実施する事業者としての取組【エコダイラ・オフィス計画】

1 エコダイラ・オフィス計画の概要

平成 9(1997)年に京都議定書が採択され、温室効果ガスの総排出量を 6%削減する目標が掲げられました。この目標を達成するための国の取組に合わせ、平成 14(2002)年度に、市が実施する事業者としての取組で環境率先行動計画と地球温暖化防止計画の二つの性格を併せ持つエコダイラ・オフィス計画を策定し、取組を進めてきました。

この進捗状況及びその後策定された小平市ごみ処理基本計画(改訂)や小平市地域エネルギービジョンなどを踏まえ、市内の事業者として、さらに自ら率先して、廃棄物の減量、二酸化炭素等の温室効果ガスの削減や環境負荷の低減に積極的に取り組むために、平成 22(2010)年 3 月に令和 2(2020)年度までの 11 年間を計画期間とする第二次エコダイラ・オフィス計画を策定しました。

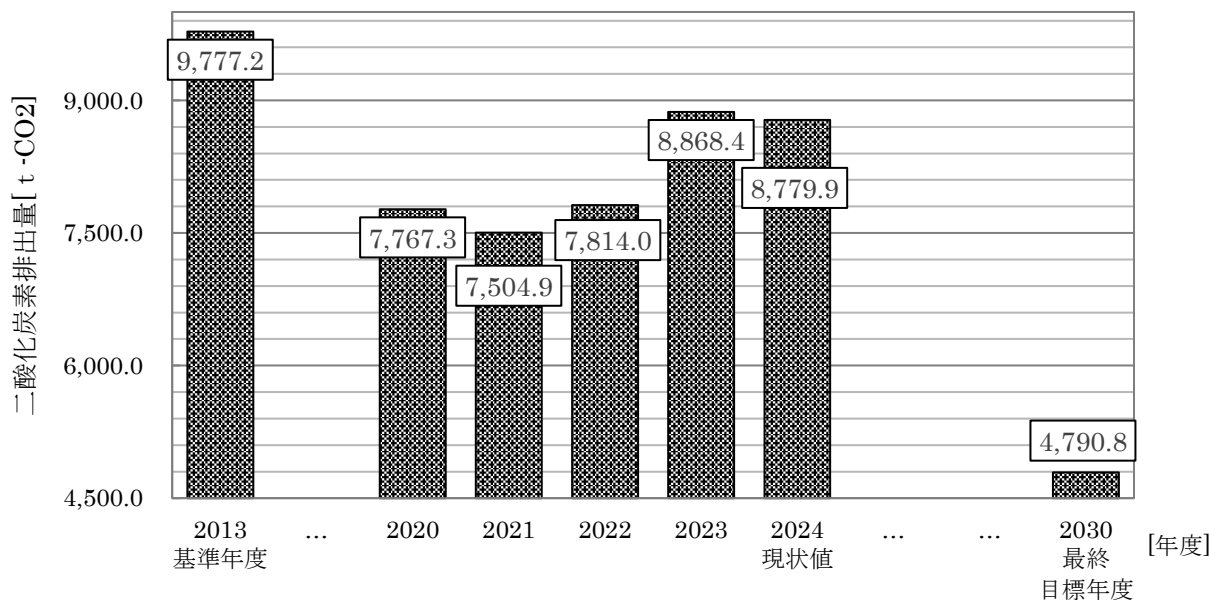
令和 3(2021)年度からは、小平市第三次環境基本計画に包含する形で新たにエコダイラ・オフィス計画がスタートし、事業者としての小平市役所の二酸化炭素排出量の削減目標を 40%に定め、その後、令和 5(2023)年 3 月改訂の「小平市地域エネルギービジョン見直し版」の中で、削減目標を、国の地球温暖化対策計画の方針に基づき、51%に変更しました。

2 市の公共施設の二酸化炭素排出量について

(1) 市の公共施設全体の二酸化炭素排出量

令和 6 (2024)年度の二酸化炭素排出量は、8,779.9 t-CO₂で、基準年度である平成 25(2013)年度の 9,777.164 t-CO₂に比べると 10.2%の減少となっています。

小平市の公共施設の二酸化炭素排出量の推移と目標値



単位：t-CO₂

数値目標	基準値(2013)	現状値(2024)	中間目標年度 目標値(2025)	目標値(2030)
公共施設の 二酸化炭素排出量	9,777.2	8,779.9 (△10.2)	6,276.9 (△35.8%)	4,790.8 (△51.0%)

二酸化炭素排出量の推移

単位：t-CO₂

	二酸化炭素 排出量	対基準年度比 増減率	対前年度比 増減率
2013 年度(基準年度)	9,777.2	—	—
2022 年度	7,814.0	△ 20.1%	4.1%
2023 年度	8,868.4	△ 9.3%	13.5%
2024 年度	8,779.9	△ 10.2%	△ 1.0%
2030 年度(最終目標)	4,790.8	—	—

(2) 施設ごとの二酸化炭素（CO₂）削減状況単位：t-CO₂

施設名称等	2013 年度 (基準年度)	2023 年度 実績	2024 年度 実績	増減率 (2024-2013)	2030 年度 (最終目標)
庁舎	763.6	649.8	446.3	△41.6	基準年度比 △ 51%
地域センター	461.6	332.1	314.3	△31.9	
小平元気村おがわ東	117.1	109.7	80.1	△31.6	
市民文化会館	1,089.8	1,003.7	1,040.5	△4.5	
保育園	381.7	347.6	343.8	△9.9	
健康福祉事務センター	60.5	62.0	63.8	5.5	
福社会館	300.8	246.2	231.9	△22.9	
健康センター	134.1	83.9	83.8	△37.5	
リサイクルセンター※1	46.2	119.2	122.9	166.0	
ふれあい下水道館	79.5	48.4	49.2	△38.1	
小学校	2,433.6	2,440.7	2,659.4	9.3	
中学校	1,002.0	949.2	976.1	△2.6	
学校給食センター※2	432.0	644.6	665.1	54.0	
市民総合体育館	593.8	425.2	425.5	△28.3	
公民館	306.4	241.6	251.4	△18.0	
図書館	671.3	577.6	409.6	△39.0	
その他施設※3	818.0	536.4	568.4	△30.5	
庁用車	ガソリン	74.7	42.5	△43.1	
	軽油	10.6	5.3	△50.0	
合 計	9,777.2	8,868.4	8,779.9	△10.2	

※1 平成 30(2018)年度に建て替えが完了し、平成 31(2019)年 4 月より稼働

※2 令和 4(2022)年度に建て替えが完了し、令和 5(2023)年 2 月より稼働

※3 消防団分団、小平ふるさと村、平櫛田中彫刻美術館、鈴木遺跡資料館、市民プール、テニスコート、グラウンド、子どもキャンプ場、学童クラブ、ほのぼの館、さわやか館、たいよう福祉センター（障害者福祉センター）、あおぞら福祉センター、公園、建設事業所、公衆トイレ、自転車駐車場等

二酸化炭素排出量＝電気・ガス等のエネルギー使用量×排出係数	
燃料	排出係数
電気(kWh)	電気事業者の基礎排出係数※4
都市ガス(m³)	2.27
L P ガス(kg)	2.99
灯油(m³)	2.50
ガソリン(ℓ)	2.29
A 重油(ℓ)	2.75
軽油(ℓ)	2.62

※4 電気事業者の基礎排出係数

単位：t-CO₂/kWh

電気事業者	2013 年度（基準年度）	2022 年度	2023 年度	2024 年度
東京電力	0.000525	0.000457	0.000457	0.000431
エネット	0.000429			
イーレックス	0.000603			
日本ロジテック	0.000486			
V-Power		0.000380		0.000479
大和ハウス工業		0.000489	0.000577	

3 取組ごとの実施状況について

(1) 取組ごとの実施状況

取 組 項 目		目 標	令和 6(2024)年度実績	
省エネルギーの推進	水道使用量	使用量を抑制する。	325,553 m ³ (前 336,893 m ³) 前 比 3.4%減	
	電気使用量		14,042,636 kWh (前 13,798,111 kWh) 前 比 1.8%増	
	ガス使用量		都市ガス	1,067,428 m ³ (前 1,032,658 m ³) 前 比 3.4%増
			LPガス	10,513.7 m ³ (前 11,306.9 m ³) 前 比 7.0%減
	その他	公共施設の LED 化 令和 12(2030)年度までに LED 照明導入率 80%とする。 LED 照明導入率 67.6%(令和 6 年度末)	LED 照明器具の更新(本庁舎地下 1 階・7 階冷暖房 設備・LED 化改修工事、公立保育園、学童クラブ、 花小金井小学校増築工事等) LED 照明導入率 67.6%(令和 6 年度末)	
エネルギーの有効活用		再生可能エネルギーの利用・ 導入の推進 エネルギー使用量見える化	太陽光発電システムの設計・建設工事 花小金井小学校増築棟 (計 40 施設、497.7 kW)	
環境に配慮した公共施設の整備		施設の計画、運用、廃棄まで のライフサイクルを通じ、環境 負荷を低減させる。	環境配慮型建材及び再生材料を積極的に使用し、 建築廃棄物を適正に処理した。	
		緑化の推進	緑のカーテンの設置 (庁舎、他 計 46 施設、前年より 2 施設減)	
環境に配慮した 自動車の利用	CO ₂ 排出量	庁用車の ZEV(電気自動車、 プラグインハイブリッド自動車、 燃料電池自動車)の導入促進 (2030 年度までに 40 台)、EV インフラの整備及び燃料使用 量の抑制	ガソリン	42,492 kg-CO ₂ (前 43,310 kg-CO ₂) 前 比 1.9%減
			軽油	5,320 kg-CO ₂ (前 7,302 kg-CO ₂) 前 比 27.1%減
			電気自動車等導入率 16.3%(17 台/104 台)	
廃棄物の減量	廃棄物の 排出量	廃棄物排出量 毎年度、前年度比減	廃棄物排出量 612,601 kg(前 664,635 kg) 前 比 7.8%減 資源化率 29.7%(前 30.5%) 前 比 0.8 ポイント減	
	用紙購入量	令和 12(2030)年度までに 1200 万枚以下を目指す。	12,719,262 枚 (前 11,847,719 枚) 前 比 7.36%増	
グリーン調達の推進		各課で環境に配慮した物品の 調達に取組む。	グリーン商品の購入及びリユースシステムの活用の 取組状況 72%	
環境に配慮する意識の高い職員の 養成		職員の環境に対する意識の向 上を図り、研修や環境情報の 提供を実施する。	・新任研修プログラム内において、エコダイラ・オフィ ス計画について説明し、職員ハンドブックを配布。 ・「エコドライブシミュレータ体験会」を実施。 ・エコダイラオフィスニュースを 2 回発行。	

※前：前年度（令和 5(2023)年度）

(2) 重点取組の実施状況

① 重点取組 1 LED 照明導入率 80%

平成 30(2018)年度に実施した「小平市カーボン・マネジメント強化事業」により、公共施設の照明器具の LED 化は二酸化炭素排出量の削減効果が大きいことがわかりました。市ではこれまで ESCO 事業を活用して小中学校、市民総合体育館・中央公園グラウンド、公民館、図書館、地域センター等の照明をそれぞれ LED 化したほか、令和 6(2024)年度は小平市庁舎の 7 階及び地下 1 階の LED 化改修工事、花小金井小学校増築工事での LED 照明の導入、公立保育園、学童クラブ等で照明の LED 化修繕を行っています。

数値目標	前年度(2023)	現状値 (2024)	目標値(2030)
公共施設における LED 照明導入率	65.4%	67.6%	80%

② 重点取組 2 エネルギー使用量の「見える化」

市では四半期ごとに使用量の前年比等を公表し「見える化」を図ることで、各施設で取り組む省エネ対策の結果を短いスパンで認識し、各施設のエネルギー使用量削減を図っています。

【四半期ごとのエネルギー量】

	単位	第 1 四半期 (4-6 月)	第 2 四半期 (7-9 月)	第 3 四半期 (10-12 月)	第 4 四半期 (1-3 月)	合計※2
ガソリン(公用車燃料)※1	ℓ					18,302.4
軽油(公用車燃料)※1	ℓ					2,058.0
ガソリン	ℓ	105.6	101.1	138.7	98.5	443.9
灯油	ℓ	0.0	0.0	648.0	2,160.0	2,808.0
都市ガス	m ³	198,824.0	279,496.0	234,297.0	354,811.0	1,067,428.0
プロパンガス(LPG)	m ³	2,409.6	1,564.0	2,731.7	3,808.4	10,513.7
電気	kWh	2,743,401.0	4,639,745.0	3,155,357.4	3,504,132.8	14,042,636.2
上水道	m ³	76,702.9	79,176.6	82,493.3	70,359.3	308,732.1
下水道	m ³	71,550.6	70,984.2	76,667.8	72,448.2	291,650.8
上水道(プール)	m ³	2,221.0	14,394.0	51.0	155.0	16,821.0
下水道(プール)	m ³	2,221.0	14,394.0	51.0	155.0	16,821.0
太陽光発電	kWh	138,149.7	129,614.2	107,198.1	123,714.2	498,676.2
太陽光発電(売電)	kWh	9,988.0	8,053.0	6,730.0	8,715.0	33,486.0
風力発電	kWh	56.5	75.1	86.1	86.0	303.7
雨水利用量	m ³	5,136.1	6,164.8	5,460.6	3,371.7	20,133.2

※1 ガソリン(公用車燃料)、軽油(公用車燃料)は年集計

※2 端数処理のため誤差が生じる場合があります

③ 重点取組 3 ペーパーレス化の推進

限りある資源を有効に活用するとともに、用紙・印刷コストの削減及び勤務時間の有効活用や生産性向上のため、ペーパーレス化を図り、用紙購入量については最終目標年度(2030 年)までに 1,200 万枚以下を目指します。

数値目標	前年度(2023)	現状値 (2024)	目標値(2030)
用紙購入量	11,847,719 枚	12,719,262 枚	12,000,000 枚

(3) その他の取組

① 庁内環境美化週間

まちの環境美化条例(令和 4(2022)年 6 月施行)に定める、「ごみゼロデー」(5 月 30 日以降の最初の日曜日)及び「みんなでまちをきれいにする週間」(10 月 1 日から 7 日まで)の取組に合わせ、市職員も、エコダイラ・オフィス計画に基づき、「廃棄物の発生抑制」及び「紙使用量の削減」の取組について強化し、ごみの減量を図るとともに、事務室の整理整頓を行いました。

(実施期間)

令和 6 年 5 月 26 日(日)～6 月 9 日(日)及び 10 月 1 日(火)～10 月 7 日(月)

② エコダイラ・オフィスニュースの発行

平成 22(2010)年 3 月の「第二次エコダイラ・オフィス計画」の策定後、計画の目的に沿って、市職員一人ひとりが率先して環境に配慮した取組を実践するよう、意識向上を図るため、平成 23(2011)年 4 月 1 日から市職員向けにエコダイラ・オフィスニュースを発行しています。

令和 6(2024)年度は、「打ち水の報告」「環境美化週間の取組」「冬期自動車使用抑制キャンペーン活動報告」について、ニュースを発行しました。

(発行回数)

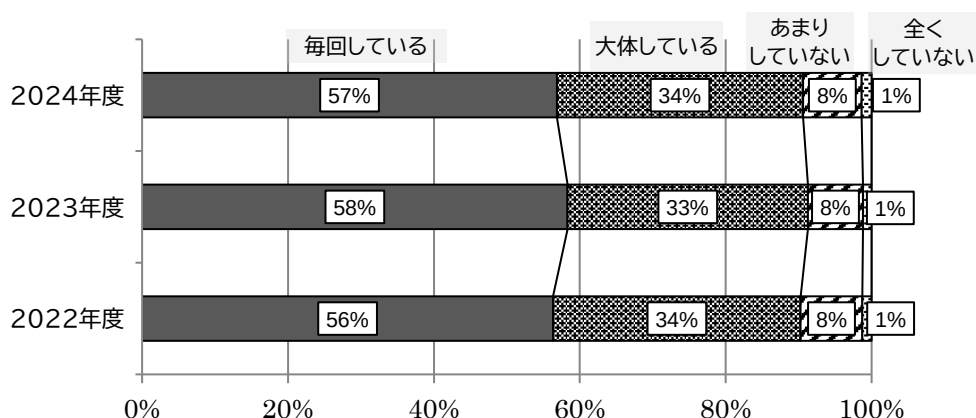
令和 6(2024)年度 2 回(No. 45～46)



4 環境行動チェックシート（職員アンケート）の調査結果について

(1) 「省エネルギーの推進」について

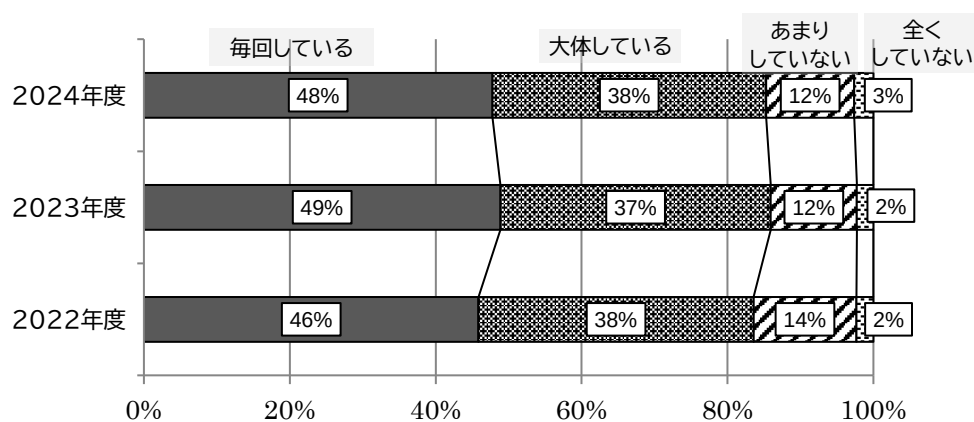
省エネルギーの推進については、「毎回している」、「大体している」が合計で91%であり、「あまりしていない」、「全くしていない」が合計で9%となりました。前年度と比較しても、引き続き多くの職員に省エネ行動が浸透しており、9割近い職員が省エネ行動を実践していることがわかります。職員が省エネ行動を継続して実践していくよう、環境配慮行動についての取組の周知、環境啓発研修等を継続して実施していく必要があります。



※四捨五入により回答の割合の合計が100%にならないことがある。

(2) 「環境に配慮した自動車利用」について

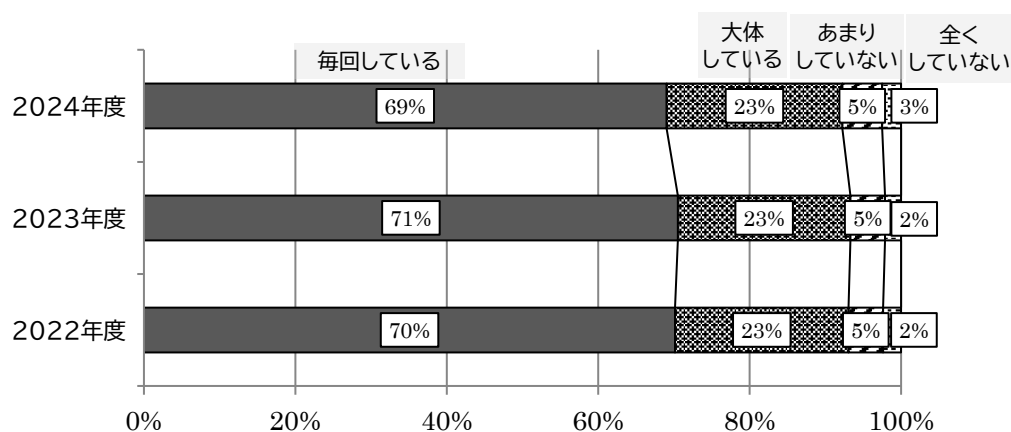
自動車利用における環境配慮行動は、「毎回している」、「大体している」が合計で86%、「あまりしていない」、「全くしていない」が合計で15%であり、前年度の調査結果から大きな変化は見られませんでした。冬季自動車使用抑制キャンペーン期間中の取組においては、平均燃費、総走行距離、給油量について前年度よりも改善傾向にあります。今後も職員研修等を通じて、エコドライブの徹底を始めとする環境への配慮行動の啓発を行っていく必要があります。



※四捨五入により回答の割合の合計が100%にならないことがある。

(3) 「廃棄物の発生抑制」について

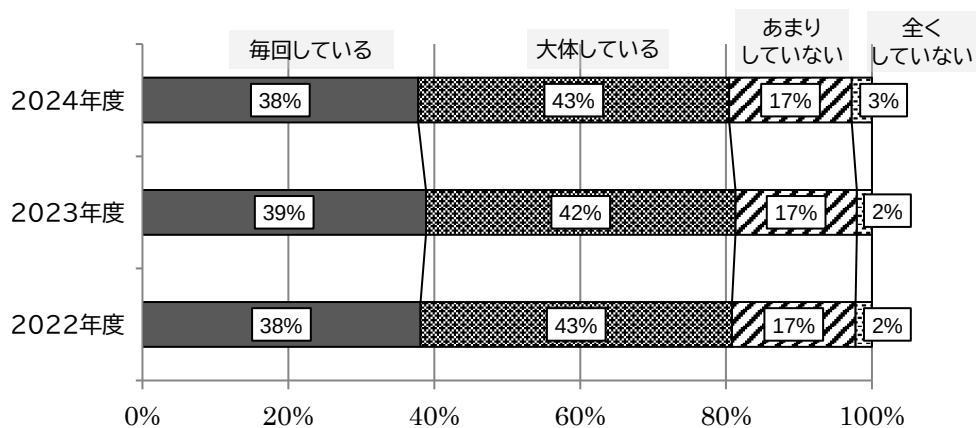
廃棄物の発生抑制については、「毎回している」、「大体している」が合計で92%と前年度と大きな変化なく、「あまりしていない」、「全くしていない」が合計で8%となりました。常日頃から廃棄物の発生抑制を意識し、自ら持ち込んだごみは持ち帰ってから捨てる、食事は食べられる量だけ注文し、残さず食べることを徹底する等の行動を実践する等、ごみを減らす取組を事業所として率先して行っていく必要があります。



※四捨五入により回答の割合の合計が100%にならないことがある。

(4) 「紙使用量の削減」について

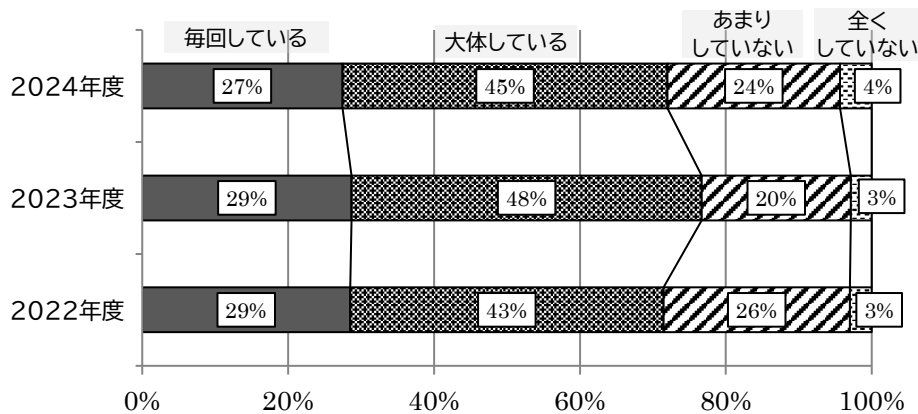
紙使用量の削減の意識・取組については、「毎回している」、「大体している」が合計で81%と前年度と変化なく、「あまりしていない」、「全くしていない」が合計で20%となった。昨年に続き、国内の古紙需給環境の変化により、印刷用紙の入手が困難な状況にあります。パソコンで作成した文書は印刷プレビュー等を活用し、事前に確認したうえで印刷するよう心がけるとともに、文書管理システムでは電子決裁を活用し、無駄に用紙を消費しないよう心がけることが求められています。また、会議や情報共有についてはオンラインで行う等電子上でやりとりすることで紙の使用量削減も見込めます。電子化は、資料を探す際の時間短縮等業務の効率化に大いに影響するため、紙使用量の削減を引き続き啓発していく必要があります。



※四捨五入により回答の割合の合計が100%にならないことがある。

(5) 「グリーン調達の推進」について

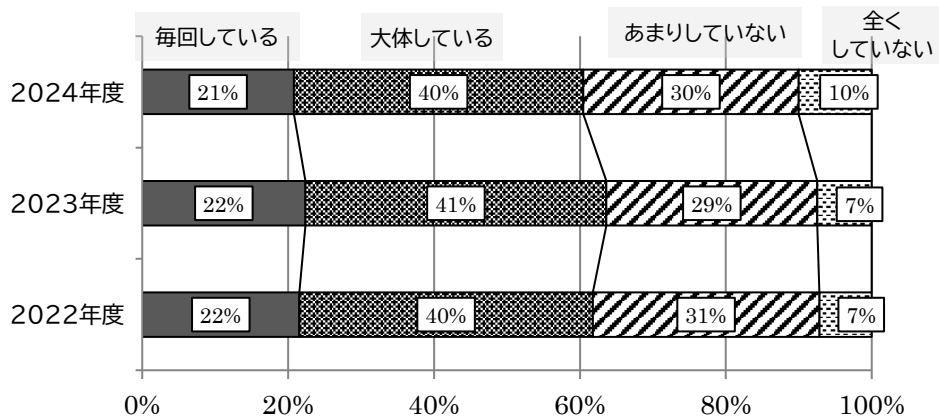
グリーン商品の購入やリユースシステムの活用については、「毎回している」、「大体している」が合計で72%と前年度から減少し、「あまりしていない」、「全くしていない」が合計で28%となりました。グリーン調達の趣旨や重要性については、職員研修だけでなく、庁内掲示板で呼びかけを行う等、各職場内に浸透していくようわかりやすく啓発していく必要があります。物価上昇により、商品選択の幅が狭まっている状況が想定されますが、まずは、詰め替えや交換が可能な製品やリサイクル製品、廃棄処分が容易な製品等を選定することを推奨します。



※四捨五入により回答の割合の合計が100%にならないことがある。

(6) 「環境に配慮した職員の養成」について

環境に配慮した行動を積極的に行い、環境情報をこまめに確認するなど、「毎回している」、「大体している」職員は合計で61%であり前年度の調査結果から減少していました。また、「あまりしていない」、「全くしていない」職員は合計で40%でした。環境問題を取り巻く社会情勢は日々変化しており、職員は環境配慮への意識を常に高めておく必要があります。今後も最新の情報をこまめに提供し、簡単に実践できる環境配慮の行動を紹介していくことで継続的に啓発を図ることが必要です。



※四捨五入により回答の割合の合計が100%にならないことがある。

5 令和 6(2024)年度の市の公共施設のエネルギー消費量及び二酸化炭素排出量の状況と今後の取組

市ではこれまで照明 LED 化を積極的に進めることで二酸化炭素排出量の削減に努めてきました。

令和 6(2024)年度も、庁舎地下 1 階と 7 階の LED 化により年間約 100 t-CO₂ の削減を図っています。
また、新たに建築した花小金井小学校増築棟においても LED 照明設備を採用しました。

令和 6(2024)年度は令和 5(2023)年度と並ぶ暑い夏となり、熱中症対策への意識が向上し、空調設備の稼働が増えたものの、カーボンオフセット都市ガスの導入といった取組により、公共施設のエネルギー使用量は令和 5(2023)年度と比較して減少し、令和 6(2024)年度の二酸化炭素排出量は令和 5(2023)年度と比較して 88.5 t-CO₂ (1.0%) の微減となりました。

なお、小学校など熱中症対策のための空調設備の稼働が多くならざるを得ない施設において、大幅にエネルギー使用量及び二酸化炭素排出量が増加した一方で、庁舎をはじめとする半数の施設では前年を下回る実績となっており、これまでの取組が効果を発揮しているといえます。

令和 7(2025)年度についても、猛暑の影響等により、毎年度行ってきた小平市節電対策基本方針の制定や公共施設の LED 化、職員への環境意識の向上を図る等による省エネルギーの推進だけでは、令和 12(2030)年度の目標値達成には厳しい状況が見込まれます。

今後は、カーボンオフセット都市ガスのさらなる導入や、小平・村山・大和衛生組合新ごみ焼却処理施設のごみ焼却熱で発電したゼロカーボン電力を庁舎、小中学校等に導入することにより、二酸化炭素排出量の削減を一層推進していきます。

数値目標	前々年度(2022)	前年度(2023)	現状値(2024)
水道使用量	302,532 m ³	336,893 m ³	325,553 m ³
電気使用量	12,853,307 kWh	13,798,111 kWh	14,042,636 kWh
ガス使用量（都市ガス） （LP ガス）	971,012 m ³ 12,314 m ³	1,032,658 m ³ 11,306.9 m ³	1,067,428 m ³ 10,513.7 m ³
公共施設の LED 化 (2030 年度までに 80%)	54.8%	65.4%	67.6%
廃棄物排出量 (毎年度前年度比減)	660,340 kg (対前年度比 38.7%減)	664,635 kg (対前年度比 0.7%増)	612,601 kg (対前年度比 7.8%減)
用紙購入量 (2030 年度までに 1,200 万枚以下)	12,737,693 枚	11,847,719 枚	12,719,262 枚
二酸化炭素排出量 (2030 年度までに 2013 年度比△51%)	7,814.0 t-CO ₂ (基準年度比△20.1%)	8,868.4 t-CO ₂ (基準年度比△9.3%)	8,779.9 t-CO ₂ (基準年度比△10.2%)